

ステップ 6

生ごみや落ち葉などの堆肥化を実践する!

生ごみなどを使って土作りをすると、農薬も化学肥料も使わずに栄養価の高い、美味しい野菜を作ることができます。堆肥化にはいろんな方法がありますので、自分のライフスタイルに合った方法で実践してみましょう!

処理機器の種類と処理内容

生ごみ処理機器	微生物による分解型	好気性	コンポスト容器	生ごみに乾いた土や、落ち葉・草・剪定チップなどをまぜ、微生物の力で生ごみを分解する。	 P13
			段ボールコンポスト	段ボール箱にピートモスともみ殻くん炭を入れたものに生ごみを混ぜ、微生物の力で分解する。	 P17, 18
			大地コンポストプランター方式	畑等に直接生ごみを混ぜ、土の中の微生物の力で分解する。	 P19~P22
		嫌気性	密閉容器	空気のない状態で働く微生物の力を利用し生ごみを発酵させた後、土に混ぜて熟成させる。	 P14
	電動式	★バイオ式	★バイオ式	微生物の活動を促すため、かくはん・加熱を行い、微生物の力で生ごみを分解した後、土に混ぜて熟成させる。	 P15
			★乾燥式	生ごみをかくはんしながら加熱し、乾燥させた後、土に混ぜて熟成させる。	
剪定枝葉粉砕機	電動式	★回転刃式（チップが細かい）	★回転刃式（チップが細かい）	腐葉土・土壌改良材の代わりとして、また、堆肥の原料としても利用できます。	 P16
			★ギア式（チップが大きめ）	マルチング材として利用したり、腐葉土・土壌改良材の代わりに利用できます	

★印があるものについては、補助制度があります。

詳しくは購入前に資源循環推進課までお問い合わせください。